

図書館ひろば



「ウィキペディアタウン」開催

2月19日(日)、第1回「Wikipediaタウンさがみはら@橋本」が相模原市立橋本図書館研修室にて開催されました。2020年1月におこなう予定が、コロナウイルス感染症の感染拡大で2回の延期を経て、ようやく実施することができました。

最初に、講師の元ウィキペディア日本語版管理者、海瀬さんから、ウィキペディアやウィキペディアタウンの説明を受けました。

昼食後、橋本駅周辺にある「橋本駅設置記念碑」「神明大神宮」を訪れ、橋本の歴史を知る会の方から解説をしてもらいながら、史跡の歴史や神明大神宮の境内を散策しました。

図書館に戻ってからは、橋本図書館にある郷土資料を使って「神明大神宮」を紹介するウィキペディアの新規記事を作成・編集しました。4名の参加者は、神社の歴史、境内、年中行事、散歩で撮影した写真など、担当をそれぞれ決めて記事作成に取り組みました。

実際のウィキペディアの編集方法は、その都

度講師や、実行委員がそばについて、丁寧にレクチャーしていきました。

2時間半と短い時間でしたが、立派な「神明大神宮」の記事が作成されました。

最後に全員で振り返りをおこないました。参加者からは「ウィキペディアの説明がわかりやすかった」「検証可能な図書館地域資料を使うことでウィキペディアの信頼性が高まる」「更新がWikipediaを加速させる」という講師のフレーズが印象的だった」「世代間交流ができた」などの感想が聞かれました。また、今後も橋本での「ウィキペディアタウン」に参加したいとおっしゃっていただきました。

開催できなかった3年間は、神明大神宮の資料を氏子総代が冊子にまとめ、橋本図書館に寄贈してくださったり、実行委員が新規記事を3本作成したり、貴重な準備期間となりました。今回の経験を活かし、このイベントを細く長く続けていきたいと思いました。(中塚)



第10回学校図書館学習会 開催

10月9日(日)に第10回学校図書館学習会「多様な資料を使った授業支援を考える」が相模原市立図書館で開催されました。

最初に、相模原市で9月から始まった電子書籍サービスについて、相模原市立図書館職員の方から説明していただきました。

続いて、SDGsについて多様な資料を使って展示や掲示を作成するというワークショップを行いました。講師が全体の流れを説明した後、4班に分かれ、全国の地方紙から気になるSDGsに関連する記事を探しました。各自選んだ記事を持ち寄り、班のテーマを決めました。2022年8月17日の地方新聞を使ったのですが、それぞれのテーマは「次のエネルギー」「変わっていく農業・漁業」「輝く女性」「へらす?ふやす?」と同じになることはなく、各班のカラーが出ました。

テーマが決まると、それを深堀するために、書籍・雑誌・インターネット・電子書籍などを使って調べました。調べる際にはニュースパークが作成した「新博キット」の情報を参考にしました。

また、電子書籍については、図書館職員から詳細な検索のやり方を教えていただきました。

模造紙や色画用紙を使ってまとめたものを掲示したり、本を展示したり、タブレットでサイトを表示したり、動画を流したり、目を引く展示を作成していきました。最後に、各班の展示を見ながら付箋に感想や気づきを書いて意見交換をしました。

終了後答えていただいたアンケートには、資料として使用した地方紙について「その地域ならではのニュースや広告、また全国紙とは違う紙面作りが見られて面白かった」「同じ日の新聞でも扱うニュースが違っていて、興味深かった」。多様な資料を使ったワークショップについては「特定の資料のみに偏っていない点が、とても良い」「新聞の記事から、図書、ネット活用への広がり、見る側の子供達の見線を考える事ができた」「ウェブサイトや電子図書館を活用するともものすごく世界が広がることを実感した」という声をいただきました。

短い時間でやることが多いワークショップでしたが、参加者みなさまのご協力で、内容の濃いものとなりました。グループによってでき上がった展示はさまざまで、主催者にも思いもよらない切り口や展開を見ることができました。

(中塚)



読み聞かせボランティアスタッフアップ講座 開催

日時：2023年3月18日（土）9:30～12:00

会場：大野北公民館小会議室2

以前から「読み聞かせは選本で8割方決まる」と言われ、本選びの大切さを痛感しているので今回の講座は榎本はついさんをお願いしました。

市立図書館の「読み聞かせ講座」後、「絵本について」同じテーマや沢山の作家の絵本を比較しながら、1年間、絵本における絵の重要性や絵を読むこと、作品に込めた作者の意図の深さがあるもの（と無いもの）、等様々な側面から絵本を選ぶ必要性を教えていただいたからです。

長い間、活動を共にした重岡さんと10年間の充実した絵本やおはなしの勉強会の後、相武台分館で活動を始めるにあたり、「あなた方の役目は、今、流行りの誰でも手に取る本ではなく、地味でもすでに何十年も読みつがれている絵本を紹介すること」との分館長からのお言葉に力をいただき、「大切だと思う絵本の力」を信じて活動を続けているそうです。

そして「大人の方がもっと汚い部分がある、人を傷つけずに生きている人も、傷つけられずに生きている人もいない。子どもは色々な葛藤を抱えつつ、一生懸命生きているのに、大人は自分の子ども時代を忘れてしまい、子どもたちに良い子であるよう強いるメッセージや自己犠牲を含む本がいいと思ってしまう。それでは子どもたちの心を開放できない。幼い時期に原始的な脳の欲求を満たすための行動を許容することがとても重要なのだ」とも。子どもは冒険し、夢を見、そして必ず帰ってこなければならぬ（清水真砂子談）。疑似体験ではあるが、おはなしの中に入ってそういう経験ができる大切な場で読み聞かせボランティアは、そういう機会や経験をさせてあげられる存在。子どもたちを教え導くのではなく、楽しさ、幸せ、満足な気

持ちと共に関わっていく事の出来る存在としての活動だと確信しました。榎本さん、柴山さん、三上さん、参加者の皆様、有難うございました。（矢部）



2023年度総会が開催されました

2023年4月15日（土）、相模原市大野北公民館にて令和5年度の総会がハイブリッドで開催されました。代表のあいさつから始まり、2022年度の活動報告、収支報告、2023年度の活動計画、予算など議案は滞りなく承認されました。

総会終了後、参加者同士で情報交換を行いました。久しぶりの対面開催で、会員の交流を図ることができました。

つなぐ会は15年目を迎えました。結成当時からずいぶん状況が変わりました。淵野辺駅南口の開発で市立図書館が新しくなることは大きなできごとです。令和8年に工事着工、令和11年に竣工予定と「次世代に引き継ぐ淵野辺駅南口周辺のまちづくりビジョン～鹿沼公園・公共施設再整備に向けて～（案）」に書かれています。アフターコロナで、世間も以前に戻りつつあり、今年度は積極的に事業や提言をしていきたいと抱負を語り合いました。

「私のイチオシ本～POPを描いて紹介～」 展示

恒例になった、POPと本の展示を11月の一カ月間、市立図書館2階の展示スペース全面を使って展開しました。

一般の方、桜美林大学「読プロ」さん、相模女子大学の学生さん、つなぐ会、図書館職員から33作品が集まりました。布えほんもガラスケースの中に入れ、POPをつけ紹介しました。

展示期間中は、多くのかたが足を止め、本を手にとってくださったようです。延べ22回の貸出がありました。TwitterでもPOPの写真をアップし、図書館に行かなくても見てもらえるよう発信していきました。

このPOP企画は、本と人が出会うきっかけ作りとして定着してきたように感じます。次回からは、双方向で何かできないか、新たな試みも考えています。 (中塚)



次世代に引き継ぐ 淵野辺駅南口周辺のまちづくり 市民検討会に参加して

令和4年9月9、10日に複合化の対象となっている施設で「淵野辺駅南口周辺のまちづくりに係るオープンハウス」が実施されました。その結果を第23回(9月25日)で基本計画(案)修正の方向性(たたき台)とともに伝えられ、委員と事務局との活発な質疑応答が行われました。

同様に、第24回(11月20日)も基本計画修正素案について説明を受け、活発な質疑応答が行われました。

「次世代に引き継ぐ淵野辺駅南口周辺のまちづくりビジョン～鹿沼公園・公共施設再整備に向けて～(案)」について、令和5年2月1日から3月2日までパブリックコメントを実施しました。これは市民検討会等の検討結果等を踏まえ、平成29年の基本計画案を見直し、新たな案として公表して、意見を伺うものです。2月10、11日にはオープンハウス型説明会と市民説明会が開催されました。その結果を第25回(3月21日)に伝えられ、市民検討会の振り返りと有識者協議会委員による講評で今年度の最後の検討委員会を終えました。

なお、この3回は全てけやき会館で開催されました。 (古谷)

編集後記

やっとうィキペディアタウンを開催することができました。街歩きをするため、イベント保険を申し込みました。何回も保険会社の担当者とやり取りしていたので、「とうとう開催ですね!お天気に恵まれますように」とメールが来た時には、ここまで色々なかたにご協力いただいたなあ、としみじみ感じました。(Y.N.)